

尿沈渣中に卵巣明細胞腺癌細胞の出現を認めた1症例

◎石山 大治¹⁾、友田 美穂子¹⁾、上東野 誉司美¹⁾、高橋 ひろみ¹⁾、阿部 仁¹⁾、千葉 知宏¹⁾、三宅 一徳²⁾、中山 耕之介¹⁾
 公益財団法人 がん研究会 有明病院¹⁾、順天堂大学医療科学臨床検査学科²⁾

【はじめに】

尿沈渣検査にて腺癌細胞を検出する頻度は多くないとされている。なかでも卵巣癌が認められることはまれである。今回、我々は卵巣癌患者の尿沈渣中に明細胞腺癌の細胞を認めた症例を経験したので報告する。

【症例】

50代、女性。4年前に卵巣癌のため腹式子宮単純全摘術および両側卵管卵巣摘出術を施行し、術後補助として2コースのTCb療法を実施した。その後CT検査にて多発転移を認め入院となり、尿閉のため尿道バルーンカテーテル留置が施行され尿検査が依頼された。

【検査所見】

1. 尿定性所見：蛋白(2+)，糖(-)，潜血(4+)肉眼的血尿，白血球(2+)，亜硝酸塩(-)。
2. 尿沈渣所見：赤血球50以上/HPF，白血球50以上/HPF，扁平上皮細胞(-)，尿路上皮細胞10-19/LPF，尿管上皮細胞(-)，細胞質内封入体細胞(-)，硝子円柱20以上/LPF，上皮円柱1-4/LPF，細菌(-)，

悪性を疑う細胞5-9/LPF，悪性を疑う細胞集塊1-4/LPF，コメント 腺癌細胞疑い，尿路上皮細胞集塊1-4/全視野。対象の細胞は脂肪顆粒を有した淡明な細胞質，濃染傾向を示した不整核及び明瞭な核小体を有していた。またシート状や乳頭状の大型細胞集塊の出現を認めた。さらに粘液様の成分を取り囲むような集塊も見られた。

3. 尿細胞診所見：判定 陽性(Class V)，推定病変 Adenocarcinoma。
4. 病理所見：CK AE1/AE3(+), Napsin A(+), HNF1β(+), PAX8(+), Clear cell carcinoma of the right ovary。

【考察】

今回我々は、尿沈渣中に卵巣癌の明細胞腺癌を疑う細胞を認めた症例を経験した。尿沈渣にて腺癌細胞が認められる事例は多くないが、卵巣癌の明細胞腺癌はさらに頻度が少なく貴重な症例であった。このような、まれな症例の細胞が出現する可能性を念頭に置きながら尿沈渣鏡検を行うことが必要であると考えられた。

連絡先：03-3520-0111